

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科・公民科を中心に、算数科・数学科、体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<小学校・6年生> 社会科

【単元名】 国民としての権利（選挙）（(1)ア(7)(イ)）

【主な単元の目標】

- 選挙は国民の代表者を選出する大切な仕組みであること、及び、選挙権など政治に参加する権利が国民に保障されていることを理解できるようにする。
- 資料やインタビュー活動を通して視覚障害をもつ人が選挙に行く際の困難さを知り、選挙権が保障されるための課題が何なのか、そのために国や地方公共団体にはどんな対応が求められるのか考え、表現する。
- 自分の周りの人々の置かれている状況に目を向けるために、新聞記事やニュース映像等を活用して社会の出来事を調べ、社会が抱えている課題を見つける。

【学習問題】政治に参加する権利の一つである選挙権が、等しく国民に保障されるために、国や地方公共団体には何が求められるだろう。

【実践例】 ※自己実現活動「より良い社会を目指して」 第4・5/6時

授業の概要

<概要>

- ①ゲストティーチャーの紹介
- ②学習前のアンケート結果や質問項目を振り返り、障害に対するクラスの考えの傾向を捉える。
- ③ゲストティーチャーへ質問をする。
- ④点字器を使って模擬投票をしたり、PCを使いこなして他者とコミュニケーションをとる様子を見る。
- ⑤事前に社会科の授業で学習した国民としての権利である選挙権についてや、ゲストティーチャーへのインタビューを通して、より良い社会を創るために自分や社会ができることについて、「共生社会」という言葉を意識しながら考えをノートに書く。
- ⑥本時の振り返りを行う。



<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

- ・児童が考える障害者像を捉え直すために、ゲストティーチャーに点字の実演や生活の中で行っている工夫を聞く機会を設けたこと。
- ・「自分だったら？」と授業者が児童へ問いかけ続けることで、学習問題を常に意識して考えるようにしたこと。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

- ・自分たちが考えた解決策を視覚障害当事者に投げかけ、その反応をもとに再度考えを吟味した。合意形成を複数回行えるようにすることで、合意形成の深化を目指したこと。

○社会科と他教科等との連携

自己実現活動

- ・視覚障害当事者
- ・文京区選挙管理委員会

専門家や関係諸機関等との連携・協働

効果等

- ◆ ゲストティーチャーとの交流を通して、児童は障害をもつ人々に関心を寄せ、社会インフラなどが自分たち以外の人たちにも使いやすいものになっているかどうか、「共生社会」実現のために自分や社会ができることは何かを考えることができた。
- ◆ 交流後もゲストティーチャーとのやり取りを継続させ、児童の質問や考えに対してアドバイスを受けたことで、児童は考えを見直したり、深めたりすることができた。

時間	主な学習内容	
	社会科	関連付けた他教科等
1/2	<ul style="list-style-type: none"> 日本における選挙制度と模擬投票 	
3	<ul style="list-style-type: none"> 障害をもつ人々が選挙に行く困難さに触れ、選挙の課題がどこにあるのか考える。 	自己実現活動「よりよい社会を目指して」 ・視覚障害者に対する質問をまとめ、インタビュー活動の準備をする。
4-6	<ul style="list-style-type: none"> 視覚障害当事者の話や新聞記事・ニュース等で調べた情報を基に、障害の有無に関係なく選挙権が保障されるために、国や地方公共団体にはどのような働きが期待されるのか、考え、まとめる。 	自己実現活動「よりよい社会を目指して」 ・ゲストティーチャー（視覚障害者）を迎え、インタビュー活動等を行う。 ・自分たちがより良い社会を実現するためにできることを考え、ゲストティーチャーに発表する。 ・ゲストティーチャーからの返信を受けて改めて自分たちや社会ができることを考え、まとめる。

※ 単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

※ 「自己実現活動」は、教育課程特例校認定によって設置された教科横断的な学びを行う教科である。

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科・公民科を中心に、算数科・数学科、体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<中学校・3年生> 社会科（公民的分野）

【単元名】 私たちの暮らしと政治（C(1)ア(ア)(イ)C(2)ア(ア)(イ)(ウ)イ(ア)）

【主な単元の目標】

- ・我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割、議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方、国民の権利を守り、社会の秩序を維持するための法に基づく公正な裁判の保障について理解する。
- ・障害者の方の話を踏まえ、現在の選挙について公正の視点から考察し、現状と課題について理解する。
- ・課題を解決し、国民が等しく政治に参加できるようにするためには、どのようなことが必要か、考え、表現する。

【学習課題】

主権をもつ国民の意思を政治に反映させ、皆がくらしやすい社会を実現していくために必要なことはなんだろうか。

【実践例】 ※社会科（公民的分野） 「障害のある人からみた選挙の壁」 第5・6/6時

授業の概要

<概要>

- ① ゲストティーチャーより、障害の特性についてお話いただく。
- ② 選挙に行く際に必要な支援について説明いただくとともに、郵便投票の仕組みを勝ち取った経緯や投票に当たった様々なサポート情報を紹介するNHK「みんなの選挙」ページの作成に関わった経験についてお話いただく。
- ③ 選挙の「壁」をつくっているのはだれか。なぜ壁があるのか。車椅子を例に、「個人モデル（障害は車椅子の人にある）」から「社会モデル（障害は車椅子を利用できない環境にある）」へと思考を転換していくことの重要性を理解させる。
- ④ グループ討論
 - 1) あなたが障害者だとしたら、投票に行くかどうか？ その理由も。
 - 2) 障害のある、ないに関わらず、多様な人々の立場から考えるには、何が必要だろうか？
- ⑤ グループ発表と本時の振り返り



<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

当事者からお話いただくことで、意思決定場面において、当事者の立場を考えてより具体的なイメージを持って改善策を考えることができるようにした。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

題材選択に選挙の「壁」と、外部人材に「障害者」との直接対話を小中高で共通項にすることで、一貫した学習プログラムとした。

○社会科と他教科等との連携

特別活動（生徒会の組織づくりと生徒会活動の計画や運営）

専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・ALS（筋委縮性側索硬化症）患者
- ・文京区選挙管理委員会

効果等

◆主権者として平等に行使しうる権利が妨げられていないか、社会を構成する様々な人の視点から考えることの大切さに気が付くことができた。また、そのような意識をもつことが、多様性を認め合う社会の基礎となっていく、という気付きにもつながった。

時間	主な学習内容	
	社会科（公民的分野）	関連付けた他教科等
1	民主主義と政治	
2	政治参加と選挙	・特別活動（生徒会活動）「生徒会役員選挙」
3	政党と政治	
4	マスメディアと世論	
5/6	民主政治の推進 「障害のある人からみた選挙の壁」（本時）	

※ 単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

【研究主題】

「遊び」を生かして主権者を育てる社会科・公民科を中心とした小中高連携カリキュラムの開発

【開発するプログラムの概要】

「意思決定」に関わる資質や能力を軸として、社会科・公民科を中心に、算数科・数学科、体育科・保健体育科の3教科で「知・情・意」を意識した連携を図り、「遊び」を活用しながら「合意形成」をテーマにカリキュラム・マネジメントを通じた小中高を一貫する主権者教育の一つの学習プログラムを開発する。

実践内容 ※開発するプログラムから一部抜粋

<高校・2年生> 公民科（現代社会）

【単元名】政治参加と民主政治の課題
(2(2)イ,3(2)イ(ウ))

【主な単元の目標】

- ・基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深め、日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活との関りから認識を深める。
- ・民主政治における個人と国家について考察し、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。
- ・障害者とのやりとりを踏まえ、社会の課題を解決するために、社会を構成する個人としてどう生きるべきか、考え、表現する。

【学習課題】

国民の多様な意見が政治に反映されたより社会の実現のために、私たちに、社会を構成する一人としてどのような姿勢（態度）が求められるのだろうか。

時間	主な学習内容	
	公民科（現代社会）	
1/2	選挙と選挙制度	
3	よりよい社会の実現のために 「インクルーシブな選挙制度の実現のために」（本時）	

※ 単元名の（ ）内は学習指導要領の内容の該当番号

【実践例】 ※公民科（現代社会）「インクルーシブな選挙制度の実現のために」 第3/3時

授業の概要

<概要> 3校種共同意識調査で見えてきた高校生の持つ意識の課題は「障害＝身体障害」という限定的な理解であった。これを打破し、広く障害者との共生のために改善すべき制度上の課題についての検討を行う。

- ・ゲストティーチャーから障害ゆえに生じる選挙に関する困難（投票前の情報収集や投票所など）についてお話しいただく。
- ・ゲストティーチャーの話を踏まえ、特に発達障害を抱えた人が選挙に参加できるように改善すべき制度をテーマにワールドカフェでのディスカッションを行う。

ラウンド1「課題の発見、解決策検討」

ラウンド2「解決策の拡張」

ラウンド3「解決策のさらなる深化」

- ・各グループでの議論をまとめ、解決策についてゲストティーチャーへ提案し評価をいただく。

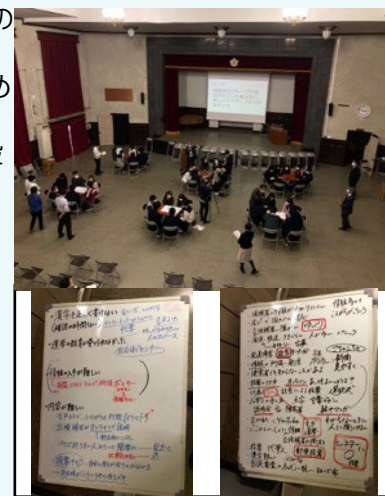
<指導上の工夫>

○地域や社会生活における具体的な課題等を自分との関わりの中で捉えられるようにするための指導上の工夫

成年年齢に近づいている高校2年生にとって主体的に取り組みやすい「選挙」をテーマの軸に据えた点。

○小中高を一貫する学習プログラムに資する工夫

小中高の連携による共通項は「合意形成」。高等学校段階では具体的な制度に関して真に求められている改善点を当事者との対話から読み取り、実現可能な制度設計を検討する。



専門家や関係諸機関等との連携・協働

- ・発達障害当事者（当事者としての視点から生徒と対話）
- ・障害者雇用を積極的に推進する企業

効果等

- ◆実際に発達障害の方を交えて議論することで、相手を意識して自分の意見を伝える力及び相手の意見を受け取る力の伸長が図られた。
- ◆ゲストティーチャーから提案内容の評価を受けながら提案内容を精査することで、考察を深めることにつながった。